

2003. 11

霊性センターニュース

182号



## 「砂漠の中に立つ十字架」

カルメル会 中川 博道

十数年前「東京砂漠」という言葉が、コマーシャルソングによって流れていたことがありました。日本における「心の砂漠」は、年々広がっているように思います。

「砂漠・荒れ野」は聖書において、危険に満ちた、法の秩序の届かない、生きることを難しくする場の象徴です。また、人間がばらばらにされていく誘惑に満ちた世界でもあります。しかし、同時にイスラエルの民が神ご自身との豊かな出会いを体験した場でもありました。彼らは人生を真に導くのは神であり、自分たちがいかに神に信頼することにかたくなであるかを知りました。そして、そのようなものを守り赦しつづけ、慈しみを示し、養い育てるお方に出会ったのです。

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。

それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3. 14~15)

聖書の民は、荒れ野で傷ついたとき、青銅の蛇を眺めることを通して癒されました。ヨハネは、今、私たちが砂漠で仰ぎ見るべきはイエスの十字架であると宣言します。

現代という砂漠の中に立てられた十字架。十字架は、殺されてもその相手にいのちを注ぐ、神の確固とした私たちへのかかわりのしるしです。自らを引き裂いて食べさせ養うパンのしるし、私たちの足元にひざまずいて仕え癒すイエスの姿です。

存在が傷つき、生きることに行きづまる砂漠を歩むとき、十字架を仰ぎ見る中で、癒され生きる経験へと私たちは招かれています。

幼きイエスの聖テレジアは、自分の「小ささ」に行き当たるたびに、自分の存在の根である「神の無限の憐れみの愛」に目を注ぎました。

「私は傷を持っている。

しかし、その傷のところからあなたのやさしさがしみてくる。」(星野富広)

## 2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

### 黙想会年間スケジュール

#### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、原 造修士 (カルメル会)  
Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月 7日 (土) 16時～16日 (月) 朝食 了  
(2) 10月20日 (月) 18時～29日 (水) 朝食 了  
全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

#### 2. 奉獻生活者のための黙想会

- (1) 7月30日 (水) 16時～ 8月 8日 (金) 朝食 渡辺幹夫師 了  
(2) 8月12日 (火) 16時～ 8月21日 (木) 朝食 星野正道師 了  
(3) 12月26日 (金) 16時～翌年1月4日 (日) 朝食 チブリアーノ師

#### 3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月12日 (土) ～13日 (日) 奥村一郎師 了  
(2) 6月28日 (土) ～29日 (日) 九里 彰師 了  
(3) 9月27日 (土) ～28日 (日) 星野正道師 了  
(4) 11月29日 (土) ～30日 (日) 九里 彰師

2004年

- (5) 2月21日 (土) ～22日 (日) 星野正道師  
(6) 3月 6日 (土) ～ 7日 (日) 奥村一郎師

#### 4. ウェンズディ・リトリート

スタッフ：星野正道師 (講話、ミサ、etc.)

テーマ：「み手の中ですべては変わる」

- |                |                |         |   |
|----------------|----------------|---------|---|
| A              | B              |         |   |
| (1) 4月23日 (水)  | (1) 5月21日 (水)  | 10時～16時 | 了 |
| (2) 6月 4日 (水)  | (2) 7月 2日 (水)  | "       | 了 |
| (3) 9月 3日 (水)  | (3) 10月 1日 (水) | "       | 了 |
| (4) 11月 5日 (水) | (4) 12月 3日 (水) | "       | 了 |
| (5) 2月18日 (水)  | (5) 3月 3日 (水)  | "       | 了 |

## 5. 奉献生活者と信徒のための黙想会

2004年1月19日(月)16時～1月28日(水)朝食 星野正道師

## 6. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

- (1) 7月 7日(月)20時～9日(水)15時 新井延和師 了
- (2) 11月18日(火)20時～20日(木)15時 //
- (3) 12月 5日(金)20時～7日(日)15時 Sr.伊従信子

## 7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし)チェックアウト午前10時まで

- (1) クリスマス 12月24日(水)～25(木)朝食
- (2) 復活祭 2004年4月11日(土)～12(日)朝食

## 8. ユース・リトリート

若者のための黙想会

11月22日(土)夕食～11月23日(日)16時 大瀬高司師

## 9. 青年黙想会 (男女)

スタッフ: カルメル会士

- (1) 5月16日(金)20時～18日(日)16時 了
- (2) 11月 7日(金)20時～9日(日)16時

## 10. 召命黙想会 (男女)

スタッフ: カルメル会士

10月3日(金)20時～5日(日)16時 了

その他、皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 TEL. 03-3704-2171 へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお願い致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいますようお願い致します。

2003年

# 黙想会案内

## 【聖書深読黙想会】

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

|                  |        |   |
|------------------|--------|---|
| 1月11日(土)～12日(日)  | 奥村一郎神父 | 了 |
| 2月15日(土)～16日(日)  | 中川博道神父 | 了 |
| 3月 8日(土)～ 9日(日)  | 星野正道神父 | 了 |
| 4月26日(土)～27日(日)  | 奥村一郎神父 | 了 |
| 5月17日(土)～18日(日)  | 新井延和神父 | 了 |
| 7月19日(土)～20日(日)  | 星野正道神父 | 了 |
| 9月20日(土)～21日(日)  | 九里 彰神父 | 了 |
| 10月18日(土)～19日(日) | 中川博道神父 | 了 |
| 11月22日(土)～23日(日) | 新井延和神父 |   |
| 12月13日(土)～14日(日) | 大瀬高司神父 |   |

## 【青年のための黙想】

・男性のため

|                  |        |   |
|------------------|--------|---|
| 5月23日(金)～25日(日)  | 九里 彰神父 | 了 |
| 11月 7日(金)～ 9日(日) | 大瀬高司神父 |   |

(金曜日午後8:00～夕食すませてから)

・女性のため

|                    |         |        |   |
|--------------------|---------|--------|---|
| 7月5日(土)～6日(日)      | 星野正道神父  | ・カルメル会 | 了 |
| 12月7日(日)午前10時～午後5時 | カルメル宣教会 |        |   |

## 【一般のための黙想】

・水曜の黙想

(午前10時から午後4時まで)

|                     |           |   |
|---------------------|-----------|---|
| 1月 8日(水) 一年の初めに     | アロイジオ神父   | 了 |
| 2月12日(水) 祈り         | シスターベアトリス | 了 |
| 4月23日(水) 復活         | 新井延和神父    | 了 |
| 5月14日(水) 聖母マリアとともに  | 奥村一郎神父    | 了 |
| 6月18日(水) 聖 霊        | 長岡幸一神父    | 了 |
| 9月17日(水) 十字架の神秘     | 新井延和神父    | 了 |
| 10月 8日(水) アピラの聖テレジア | 新井延和神父    | 了 |
| 11月12日(水) 愛と死       | 奥村一郎神父    |   |

・聖テレーズの黙想

|                         |       |   |
|-------------------------|-------|---|
|                         | 伊従信子氏 |   |
| 10月 4日(土)午後5時～5日(日)午後4時 |       | 了 |

・四旬節の黙想

|                 |        |   |
|-----------------|--------|---|
| 3月15日(土)～16日(日) | 北村善朗神父 | 了 |
|-----------------|--------|---|

・待降節の黙想

|                  |        |  |
|------------------|--------|--|
| 11月29日(土)～30日(日) | 星野正道神父 |  |
|------------------|--------|--|

## 【特別黙想】・英語による黙想会 (部分参加も可能です。)

|                  |                   |   |
|------------------|-------------------|---|
| 4月29日(火)～5月3日(土) | シスターベアトリス・カルメル宣教会 | 了 |
|------------------|-------------------|---|

## 【奉獻生活者の黙想】

(午後5時集合/午前9時解散)

|                  |        |   |
|------------------|--------|---|
| 7月7日(月)～7月16日(水) | 星野正道神父 | 了 |
| 8月6日(水)～8月15日(金) | 中川博道神父 | 了 |

【申し込み】 はがき又は、FAX にて「氏名、住所、電話番号、(所属修道会名)を書いてお申し込み下さい。但し、一般の「一日黙想」は電話での受付もいたしません。また、個人、一般、グループの黙想のための場所としてご利用ください。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

## 聖書深読センターが発足しました!

所長 : 奥村一郎 神父  
事務局長 : 新井延和 神父  
連絡先 : シスター ベアトリス  
〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

tel:0774-32-7016

fax:0774-38-2543

e-mail:[carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

### ● 聖書深読黙想会

● 東京——カルメル会東京上野毛聖テレジア修道院(黙想)

|                  |        |   |
|------------------|--------|---|
| 4月12日(土)~13日(日)  | 奥村一郎神父 | 了 |
| 6月28日(土)~29日(日)  | 九里 彰神父 | 了 |
| 9月27日(土)~28日(日)  | 星野正道神父 | 了 |
| 11月29日(土)~30日(日) | 九里 彰神父 | 了 |

(土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで)

連絡先 : 〒158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

tel:03-5706-7355

fax:03-3704-1764

● 宇治——宇治カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

|                  |        |   |
|------------------|--------|---|
| 4月26日(土)~27日(日)  | 奥村一郎神父 | 了 |
| 5月17日(土)~18日(日)  | 新井延和神父 | 了 |
| 7月19日(土)~20日(日)  | 星野正道神父 | 了 |
| 9月20日(土)~21日(日)  | 九里 彰神父 | 了 |
| 10月18日(土)~19日(日) | 中川博道神父 | 了 |
| 11月22日(土)~23日(日) | 新井延和神父 | 了 |
| 12月13日(土)~14日(日) | 大瀬高司神父 | 了 |

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

連絡先 : 〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

tel:0774-32-7016 / fax:0774-38-2543

・京都・河原町——河原町カトリック会館 6階

|           |        |   |   |
|-----------|--------|---|---|
| 4月12日(土)  | 新井延和神父 | } | 了 |
| 5月10日(土)  | 奥村一郎神父 |   |   |
| 6月14日(土)  | 北村善朗神父 |   |   |
| 7月12日(土)  | 新井延和神父 |   |   |
| 9月13日(土)  | 奥村 豊神父 | } | 了 |
| 10月11日(土) | 奥村一郎神父 |   |   |
| 11月8日(土)  | 中川博道神父 |   |   |
| 12月13日(土) | 新井延和神父 |   |   |

時間 : 午前10時～午後4時  
 費用 : 2500円(昼食代を含む)  
 持参品 : 聖書、筆記具、ノート  
 連絡先 : 〒604-8006  
 京都市中京区河原町三条上ル  
 河原町カトリック会館内 聖書委員会  
 tel:075-211-3484 / fax:075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

・横浜

|                  |        |                   |   |   |
|------------------|--------|-------------------|---|---|
| 5月29日(木)～30日(金)  | 奥村一郎神父 | (横浜滝之上 ザビエルセンター)  | } | 了 |
| 7月10日(木)～11日(金)  | 九里 彰神父 | (不二聖心会黙想の家)       |   |   |
| 10月9日(木)～10日(金)  | 九里 彰神父 | (横浜滝之上 ザビエルセンター)  |   |   |
| 11月18日(火)～19日(水) | 奥村一郎神父 | (宇治カルメル会聖テレジア修道院) |   |   |

連絡先:  
 [ザビエルセンター]  
 〒231-0837 神奈川県横浜市中区滝之上1 tel:045-621-1974  
 [不二聖心会黙想の家]  
 〒410-1126 静岡県裾野市桃園198 tel:0559-92-2120  
 [宇治聖テレジア修道院]  
 〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 tel:0774-32-7456

\*連絡責任者 密本昌俊 tel/fax:045-621-5838

・名古屋

|                  |        |               |   |   |
|------------------|--------|---------------|---|---|
| 4月26日(土)         | 新井延和神父 | (日比野カトリック教会)  | } | 了 |
| 6月7日(土)～8日(日)    | 奥村一郎神父 | (宇治カルメル会黙想の家) |   |   |
| 9月20日(土)         | 星野正道神父 | (日比野カトリック教会)  |   |   |
| 11月15日(土)～16日(日) | 奥村一郎神父 | (宇治カルメル会黙想の家) |   |   |

- \* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- \* 原則として、定員は21名とし、申し込みはファックスまたは葉書でお願いします。
- \* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全行程を行なう一泊二日コースがあります。
- \* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

連絡先：〒465-0058

愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

tel/fax:052-701-3685

## ●通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

### 1. 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は「個人素読」(記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙)を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円(4月, 7月, 10月, 1月に入れる)

継続 15,950円

講師：奥村一郎(奇数月) 新井延和(偶数月)

問い合わせ：(163-0278) 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527(直通)

### 2. 有光さんのグループ

参加者は「素読表」(B5あるいはその半分に記号、全、および思いを書く。書式は自由)を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回300円 年10回3千円

住所：(663-8033) 西宮市高木東町16-18-504 有光信子

電話・fax：0798-67-8132

振込先：01170-4-59360 聖書深読センター大阪

## ●ミニ深読

グループで、2,3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光またはSr.ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr.ベアトリスまでお願いします。



# 祈り

カルメルの靈性に基づいて

聖テレジアの祈りの体験

| 月   | 日      | テーマ           |   |
|-----|--------|---------------|---|
| 9月  | 15日(月) | テレジアの祈りー子供として | 了 |
| 10月 | 20日(月) | テレジアの祈りー大人として | 了 |
| 11月 | 3日(月)  | 祈りの段階         |   |
|     | 17日(月) | 祈りの目標         |   |
| 12月 | 8日(月)  | テレジアの祈りの特徴    |   |

時間ー2:00~4:00

2:00~2:30ーインプット

2:30~3:30ー念祷

3:30~4:00ー分かち合い

どなたでも参加できます。

費用:無料

担当:カルメル宣教修道女会 シスターベアトリス

場所:宇治カルメル会聖テレジア修道院(黙想)



## … 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

— NOVEMBER —

重要なことは、私たちが祈りのうちにいつも一致していること、そしていつか永遠の光の中で出会うことができるということです。この憧れがより強くなればなるほど、私たちは他の人々が自分より先を歩んでいることが分かるようになります。

誰かを聖人と認めること、あるいは、聖人であると悟ることができるのは、その人のうちに、預言者を通して語られた (qui locutus est per prophetas) 霊を感じる場合だけです。

無数の人々が、一度も永遠というものを正視することなく、また救いということの問題にすることなく死んでいくという事実を否定できないとしても——死の彼方でこれらの人々すべてに決定のときが訪れるかどうか、私たちには分かりません。けれども、信仰はそれが真実であると私たちに告げることができます。

教会の中には、共同体としての多種多様な経験があります。けれども、そのおかげで教会が存在するものではありません。むしろ神の御前にある個人は、すべての人々のためにそこに立つようカづけられます。そして、この「すべての人々にとって一つであり、一人の人にとってすべてである」ということ、教会はおおよそそのようなものなのです。

完全に慈しみに満ちた愛は、すべての人に身をかがめることができます。私たちは、本当にそうであると信じています。

恵みが、その人に直接にではなく、他者を通して近づくことを選ぶということもあり得ます。人は多様な方法によって他者の救いの役に立つことができます。

私たちが——聖霊に息吹かれて——行う愛の業、すなわち、霊によって規定された生活のすべての様式と行いは、私たちの側で何の努力をしなくとも、注意を引くものです。目がすでに開かれている人々にとってのみではありますが、私たちの聖性は明らかになり、彼らを模倣へと導きます。そして、私たちに従う人々もまた、誰であっても、最終的には神へと導かれるに違いありません。

信じる人は祈りの中で神に向き直り、恵みを他の誰かに賜うよう願うことができます。神はご自身のうちに受け入れた靈魂のために、また別の靈魂をも導き寄せることがお出来になります。

チューリングンのエリザベトを完徳の絶頂にまで導くには、24年で十分でした。その後7世紀の間に、人々は彼女のとりなしと模範の力を体験してきました。彼女の生涯は、永遠に導く星々がどこにあるのかをはっきりと示してくれます。すなわち、私たちすべては、この世では異邦人であることを、そして、この世での巡礼の間、私たちは聖霊以外に何の支えも持たないということ。

この世での生涯が終わり、一時的なものでしかないすべてのものが崩れ去るとき、すべての靈魂は、「知られているとおりの」——神のみ前にあるままの——自分自身を見ることでしょう。とりわけ、神が何の目的でその靈魂をおつくりになったのか、その靈魂は自然と慈しみの秩序のうちにとどのようなものになったのか、そして、次のことは最も重要なことですが、自分の自発的な決定によって何になったのか、ということに責任を持つことになるでしょう。

私たちが天国の市民権を持っており、天の聖人たちが仲間の市民であり、同じ家の一員であることを意識しているのは良いことです。そうであるならば、私たちは、*quae sunt super terram*（この世に存在する）事柄により易しく耐えることができるのです。

生と死の主であるお方は言われます。「私に従いなさい」と。また、主がそれをいわれるのは私たちのためであり、主は光と闇のどちらを選ぶかを私たちに迫られるのです。

内面的な成熟は、必ずしも年齢と関係があるとは限りません。

\* \* \* \* \*

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・パッツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

#### エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ）略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルクツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

（西宮カルメル会 訳・編）

= 講 話 =

カルメル在俗者会の召命

— 識別の規準 —

チプリアノ・ボンタッキョ神父

カルメル会の総長館のカルメル在俗者会の秘書局から昨年発表された“召命の識別の規準”を参考にしながら、カルメル在俗者会の召命を見つめ直すことにしましょう。

召命の可能性を認めるために、次の5つの条件が求められています。

1)カトリックの洗礼を受けていること

カルメル在俗者会はカトリック教会の信徒の集団だからです。洗礼を受けているだけではなく、信仰を忠実に守り、秘跡を定期的に受けている人。また、教会生活に積極的に参加している人。

2)マリアに対する深い信心

聖母マリアは、カルメル会の生活の中に特別な様式で現存しているからです。しかしながら、マリア信心はいろいろな形で表明されるものです。例えば、ロザリオを大切にすること。マリアに捧げられた教会に巡礼を重ねること。様々なマリア運動に参加し、またマリアのメッセージを熱心に読むこと。スカプラリオを大切に、常にそれを身に付けることなどがあります。このすべては深いマリア信心を表すものですが、カルメル在俗者会の召命を示すものではありません。カルメル会は観想的祈りに召されています。その起源の時から、カルメル会は観想者の聖母を手本として仰いできました。みことばを注意深く聴き、それを心におさめて思い巡らす聖母マリアの姿こそが（ルカ2, 19、51参照）カルメル会の目指す理想を実現しています。

3)カルメル会には“履足カルメル会”と“洗足カルメル会”があります。洗足カルメル会は“テレジア的カルメル会”とも呼ばれています。カルメル在俗者会はテレジア的カルメル会です。テレジア的カルメル会に呼ばれている人は当然テレジアの霊性、また、十字架の聖ヨハネの霊性にひかれています。しかしながら、この二人の聖人の著作になじめることができない人はその霊性にひかれているといえるでしょうか。

4)カルメル在俗者会は“生活規則”（会憲）を与えられています。その中にいろいろの決まりがあります。その決まりを守る心の準備も召命の識別に際して大切なポイントとなります。入会によって一つの共同体の一員となり、その共同体と共に歩むことになるからです。

5)祈りはテレジア的カルメルの生活の中心にあります。口頭の祈りも大切にしていますが、テレジア的カルメル会は特に観想的な祈りを目指しています。そのために、生活の中に必ず念禱の時間を取り入れています。聖母マリアのように“みことばを心におさめて思い巡らす”者になろうという目標に向かう決意が求められています。

上記の5つの条件が揃わないならカルメル在俗者会の召命が認められないと思います。

2003. 9. 21

## 2003年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

ご指導

|             |   |            |          |   |
|-------------|---|------------|----------|---|
| 日程：5/2（金）夕食 | ～ | 5/5（月）昼食   | アロイジオ神父様 | 了 |
| 6/24（火）夕食   | ～ | 6/27（金）昼食  | 九里 彰 神父様 | 了 |
| 9/12（金）夕食   | ～ | 9/15（月）昼食  | 中川 博道神父様 | 了 |
| 10/16（木）夕食  | ～ | 10/19（日）昼食 | 星野 正道神父様 | 了 |
| 11/13（木）夕食  | ～ | 11/16（日）昼食 | チプリアノ神父様 |   |

\* 空きがある場合には、一般の方でも参加できます。

\* お申し込み、問い合わせ、おたづね等は下記まで。

\* TEL・FAX 03-3892-1378（阿部 昌子）

甘栗

わたしの好物のひとつに、甘栗がある。おいしい実は、固い皮といがに包まれている。いがと皮と実、それを火で焼いたのが、甘栗である。華やかな洋菓子とはちがって、地味な色・形の甘栗から教えられる人生観は尊い。

ところで、禅語といわれることばに、次のような教えがある。

大疑団 - 大信根 - 大憤志

- (1) 大疑団 というのは「うたがう」ことでなく、しっかりした人生の問いをもつということである。人生の大問題といえ、まず“自分自身”とは何か・・・？ “愛”とは・・・？ “死”とは・・・？

このことは、禅問答だけでなく、キリスト教においても、大疑団である。自分とは・・・？ 愛するとは・・・？ 生きるとは・・・？ さらに 死とは・・・？ キリストとは・・・？

- (2) 大信根 というのは、その大疑団の根っ子をしっかりと、人生の大地に伸ばすことである。
- (3) 大憤志 というのは、上記二つの真理を探求しようとする「大きな意志をしっかりもて」ということである。

註： 以前、このことを教えられたときは、「大憤志」でなく「大奮志」と受けていた。「奮い立つ」の意味で。しかし、後で調べてみると、「奮い立つ」ぐらいではなく、「憤る (いきどおる)」ほどまで奮い立つ、という意味であることを教えられた。

これら禅道の大教訓は、奇しくもキリストの「みことば」に木霊(こだま)する。

「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を担って、わたしに従いなさい。

自分の命を救おうと望むものはそれを失い、わたしのために、命を失うものはそれを得る。

たとえ、全世界を手に入れても、自分の命を失ったならば、なんの益になるか。また人は、自分の命を買いもどすために、何を支払えばいいのか」

(マタ 16, 24-26、マコ 8, 34-37、ルカ 9, 23-25)

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(60)

### 真の自由へと成長すること

真の自由は、神の子の自由です。その自由に到達するには、生涯にわたる修行が求められます。なぜならこの世の非常に多くのものがそれに逆らうからです。私たち皆を取り囲んでいる政治的力、経済的力、社会的力、そして宗教的力さえも、私たちがそれらの命令に従い、その報いに依存するように、私たちを束縛しようします。

けれども自由へと導く霊的真理は、私たちがこの世ではなく、神に属しているということ、私たちが神の愛すべき子であるということにあります。言葉と行いによってその真理へもどり続ける生活を送ることによって、私たちは、徐々に真の自由へと成長してゆくことでしょう。

(0417)

### 自由は人をひきつける

あなたが内的に自由であるならば、気づいていようといまいと、他者を自由へと招いているのです。自由が立ち現れるところではどこでも、人は自由にひきつけられます。自由な男性や自由な女性は、他者が安全だと感じ、そこでくつろぎたいという空間を創り出すからです。私たちの世界は、たくさんの条件や要求や用件や義務で満たされているので、私たちは自分に対していったい何が期待されているのかと戸惑うのです。しかし、私たちが真に自由な人に出会う時、そこには何の期待もなく、私たちが自分自身の中へ入り、そこで自分自身の自由を発見するようにとの招きだけを見出すのです。

真実の内的自由があるところ、そこには神がおられます。そして神のおられるところ、そこに私たちは存在したいのです。

(0419)

九里 彰訳

## 死者の日

## 「わたしはその人を終わりの日に復活させる」

(ヨハネ 6 : 40)

主は『わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることである』と仰いました。復活と永遠の命はキリスト者が受ける最大の恵みです。でもなぜ死者が復活する必要があるのでしょうか。天国で神をありのままに見て至福の状態にあるのであれば、それで十分ではないでしょうか。これについてはすでに聖パウロの時代に疑問を持つ人々がいました(Ⅰコリント 15 : 12 以下参照)。

人間の完全な贖いには、体の甦りが不可欠のものであるからだと思います。身体性は生きている間、交わりの道具です。親子の関係、夫婦の関係、友人の関係、それらは皆身体がなければ成り立ちません。私たちは身体を用いてこのような関係を持ち、出会いを体験します。私たちは出会う人によって、重大な影響を受けます。まず、母親から始まり、父親、兄弟姉妹、祖父母、親戚、友達、先生、先輩、後輩、近所の人たち、同僚、その他様々な人間的つながりで出会う人たち、そういう人たちによって影響され、自分という人間を作り上げていきます。でも考えてみると自分の方からも他人に、良きにしろ悪きにしろ影響を与えています。つまり人間は交わりを生きています。

終わりの日に新しい天と地が現れるとき、全てが栄光化されます。人間以外の全被造物さえ栄光化されます(ローマ 8 : 19-22)。だから人間が地上において経験した交わり自身も栄光化されるに違いありません。もちろん地上のときのままでなく、栄光化されるのであって、それが具体的にどういうものであるか想像もつきませんが、地上の交わりが種となり、それが筆舌に尽くしがたい素晴らしいものに変えられます。そこにおいては理想の交わりが実現しているはずで、つまり、誰も自分のために生きない、全てのものを共有し、心から愛し合う状態になっていることでしょう。

そのとき新しい名前が与えられます(黙示録 2 : 17)。名前とは本質的に関係を表すものです。関係が聖化され、栄光化されます。新しい名前が神の前でのその人の終局的意味を表します。すでにそれが与えられている人もいます。たとえばマリア様に神の母という名前が与えられています。この新しい名前に、何らかの意味で身体性が伴うのだと思います。それは霊の体(Ⅰコリント 15 : 46)です。天に属する体です。この体を持って私たちは栄光化された交わりを生きます。交わりを完全に生きるために、霊的な体が必要なのでしょう。そのとき神様が、私という個のかけがえなさを交わりにおいて受け止めてくださっているのがわかるでしょう。神もまた三位一体の交わりを生きておられるからです。

(新井)



ラテラン教会の献堂

「あなた方は神の神殿である」

(Iコリント3：16)

皆さんは教会や修道院の献堂式に参加した事がおありでしょうか。たいていは司教様が来られ、盛大に祝別します。このとき司教様が本当に祝別するのは、建物でなく、そこにいる神の民です。それは今日の第2朗読がよく示しています。パウロは信者たちが神の家であり、神の神殿であると言います。キリストを信じる者がキリストの体を作るからです。

しかしながら目に見える聖堂が献堂されるのは大きな喜びです。今日はコンスタンチヌス帝によって建てられたラテラン大聖堂の献堂を記念します。

コンスタンチヌス帝は313年にキリスト教を公認した皇帝です。彼が深い信仰の持ち主であったかどうかはよくわかりませんが、彼は臨終にあたり、洗礼をのぞみ、受けたと言われています。これは洗礼後の罪の許しが得にくかった当時ではよくおこなわれたことでした。コンスタンチヌスの母ヘレナと妹たちはキリスト教徒になっていて、特にヘレナは信仰に篤い人であり、聖地エルサレムを訪れ、聖十字架を発見したり、キリストの墓の周囲にすばらしい聖堂を建てたりしました。ローマではペトロの殉教の地とされるヴァチカンに聖堂が建てられ、ラテランの宮殿が教会に寄贈され、隣接して大聖堂が建設されました。教皇様はラテラン宮殿を住居としました。聖座がヴァチカンに移ったのは15世紀の事で、その頃のいわゆるルネッサンス教皇たちは、老朽化したペトロ聖堂を建てかえることに決め、紆余曲折を経て、長い年月をかけ、ミケランジェロの設計による、今の素晴らしい聖ペトロ聖堂ができたわけです。

ラテランは千年以上の長きにわたり、聖座が置かれたところであり、その大聖堂はローマと全世界のすべての教会堂の母であり頭であると呼ばれました。この教会の献堂を記念して祝う事は、教会の勝利と一致を祝う事になります。

教会の本質は建物でなく、人間であり、キリストを信じる者が構成するキリストの体ですが、そこには中心があります。教皇様です。ラテラン教会に巡礼すると、この教会を目指して歩むフランシスコたちの銅像が目に入ります。聖フランシスコは自分のやってきたことが教会の責任者から認められるかどうか知りたくて、ラテランを目指しました。ラテラン教会は、教会の歴史の中で大きな働きをし、今もその存在の大きさを訪れる人に感じさせてくれます。

(新井)

## 年間第33主日

「その日、その時は誰も知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存知である。」(マルコ13:32)

今日の福音から受けるメッセージは疑いなく印象的です。私たちは常に裁きに向かう用意が出来ていなければなりません。この人生から呼び出される日も時も知らないからです。わたしたちの世界がいつ、どのように終わるかは私たちにはたいして重要ではありません。重要なのは、まもなく私たちがこの世を去らなければならず、わたしたちの永遠がこの世を去るときの良心の状態にかかっていると言うことです。この最も光栄に満ち、決して終わることのない出会いは十分な準備を必要とします。地上での人生は、自分を整えるのにあまりに短いのです。

いつか死なねばならないことは皆知っています。地上では異邦人、巡礼者であって、アウグスチヌスの言うように永続する都市を持っていないのです。正気な人ならこのことを否定しないでしょうが、私たちの多くはこの世のことにかかり過ぎていて、まもなくこの世を去らなければならないことを忘れてしまいます。あわれみ深い神は、わたしたちの一人一人にお呼びがかかるとき準備が出来ているようにと求めています。そのお呼びがいつ、どこであるかについては何も出来ませんが、死が訪れたときの神との関係の状態についてははすることができます。神とこの世の事物に対してどういう関係に立っているかの非常に実際的な方法は、もし今夜管理人としての報告をするように言われたらどのようにするか自問してみることです。十字架の聖ヨハネが言うように、「人生の夕べにおいて愛によって裁かれるでしょう。」さばきに直面する前に正さなければならないことがあったならすぐに始めなければなりません。

死は未知のものとの出会いです。だから私たちは死を恐れます。さらに悪いことに出会いは突然であり、私たちはいつも驚いてしまいます。インドでは死は「客」と呼ばれ、その背後には面白い考え方があります。客はインドの言葉で「アティティ」と言い、文字通りには日付がないという意味です。本当の客は連絡なしにやってきます。到着の日付と時刻を知らせる、電話もはがきもありません。

死に対してどのように準備するべきでしょう。毎日を神の子供であるとしっかりと自覚して生きることによってです。死んだときこの世という胎内を去り、神の子の充満に生まれます。神への感謝は際限ないものであるべきだと私たちは知っています。地上での残された年月は永遠を勝ち取るのに十分なだけの長さがあります。弱さ、誘惑、試練に合う人は、そういうものが自分のものではなく、天に兄弟であるキリストがいて、自分のためにあわれみの父に嘆願していてくれることを忘れてはいけません。そういう弁護士、代弁者がいるのですから私たちは彼に真実で忠実でありさえすれば、相続分を失うはずがありません。神は私たちが恩知らずの者の中に入ることを許さず、かえってキリストが勝ち得た永遠の功徳を得るために、私たちが喜んで喜んで神に協力するようにしてくださいませ。(Beatrice)

## 王であるキリスト

(ヨハネ18：33～37)

今日の福音の中で、イエスはユダヤ人の王と呼ばれます。これが人々のイエスを訴える口実になっています。当時ユダヤはローマの属領になっていたのも、王と名乗ることはそれだけで独立を主張し、ローマに反旗を翻していると取られたのです。

イエスは確かに王なのですが、その国はこの世に属していません。「もし私の国がこの世に属していれば、私がユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし実際、私の国はこの世に属していない。」とピラトに言います。政治家のピラトはこの説明でイエスが政治犯でないとわかるのですが、イエスが真理について証しするために来たことと仰ることはまったく理解できません。イエスが仰ったのは、この世の権力を持たないイエスが、実はこの世を治めるということです。

神がイスラエルを治めるとするのがイスラエルの正しい伝統でした。民が王を求めたとき、神がサムエルに言った言葉から明らかです(サムエル記上8：7)。神は、民が神の王としての君臨を退けようとしているが、しかし今は民の要求を受け入れようといったのです。また人口調査という統治の基本になることでさえ、イスラエルの王には許されていませんでした(列王記20章)。

神の御独り子であるイエスは、民の王となるべきお方でした。そして事実王となるのですが、それは誰もまったく予想もしない方法によったのです。仕えられるためではなく、仕えるために来られた主は殺されることによって王となったのです。地上の権力者は、体を殺しても魂を殺すことは出来ません。神は魂も体も地獄で滅ぼすことの出来る方です(マタイ10：28)。主は世を裁くためではなく、世を救うために来られました。しかし十字架と復活によって、この世が裁かれました(ヨハネ12：31)。それは多くの人々の心にある思いがあらわにされたからです。(ルカ2：35) 神の独り子の名を信じない者は、光の方に来なかった事自体すでにその人のさばきになったのです(ヨハネ3：17～18)。

神は全能の創造者であり、全人類をすくうことの出来る唯一のお方であり、歴史を支配しています。キリストも御父と同じように支配されます。十字架と復活によって現された愛によって、全人類を、全世界を、そして歴史を支配なさいます。世がどんなに神なしで動いているかに見えても、実は背後に神がおられます。神が愚かで弱い私たちを支えてくれています。そしてこの支えはイエスが成就された愛なのです。このようにしてキリストは今も王です。

ところでイエスの時代、王よりも偉大な皇帝がいました。王は一民族を支配するだけですが、皇帝は当時知られていた世界のほとんどすべてを支配していました。全人類の贖い主であるキリストには皇帝の称号のほうが相応しいのではないのでしょうか。ところがそうではないのです。キリストはユダヤ人と異邦人の間を隔てていた壁を取り除いてくれました。いまや神の御前で、靈的に全人類は一つの神の民族となっています。だからキリストは皇帝でなく、王なのです。キリストの贖いの業はそれほど力のあるものだったのです。

(新井)

## 待降節第1主日

「人の子の前に立つことが出来るように、いつも目を覚まして祈りなさい」

(ルカ21:36)

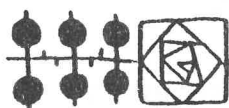
待降節の第1主日に、教会は待降節の意味(救い主キリストの到来を準備すること)を思い出すことを望んでいます。待降節は待つことを強調すると誤解してしまいがちです。待つことは受身になることでも、不活発であることでも、注意しないことでもありません。主を待つためには、目覚めていること、醒めていること、真剣に求めることが必要です。適切に待つには生活していなければなりません。待降節は身を引き、神にすべてをしてもらえという意味でなく、神の愛をより深く生き、日常の出来事を通して神の現存をより感じるようにという招きなのです。

エレミヤは預言で、当時のさまざまな困難にもかかわらず神を信頼しつづけるようにユダヤ人を励ましていますが、私たちをも勇気づけてくれる力があります。彼は希望と成就の道具でした。わたしたちも約束と神の忠実な愛に信頼することが出来ます。私たちもまた世にあって、預言者、愛と希望と正義の道具になれます。その時代、その時はすでに来ています。約束は達成されました。第一朗読の中でエレミヤは、「わたしが約束を果たす日が来る、と主は言われる」(エレミヤ33:14)と言います。モザイクのような人間関係の中で、約束を守るか破るかは大変重要な場を占めています。信頼と希望と期待は、地上を旅する人々の生活の基礎です。御国への旅を始めるとき、生涯を待降節の中で過ごすことになるのです。

数年前のことです。有名な俳優が突然病気になりました。診察したかかりつけの医師は、「大変悪い状態です。36時間以内に手術しないと助かりません。」と事務的な口調で言いました。後にこの俳優は語っています。「それまでの36年間よりも、この36時間の間に自分についてより多くのことを知りました。私が発見したことはそれまで味わったことのない喜びを与えてくれました。死を恐れていないことがわかったのです。毎日ずっとイエスに祈ることにしていました。彼がまもなくやって来ようとしていた時、祈りの実りを体験しました。イエスと私は他人同士でないことがわかったのです。私たちは親友でした。毎日彼と語り合ったおかげです。」

自分自身と生活態度、そしてこの世の物事をまじめに真剣に見つめるのに待降節以上によい機会があるのでしょうか。このように生きたら生活がどれだけ変わることでしょう。もし、クリスマスにベツレヘムの貧しい赤ん坊を率直な広い心で、すなわち与えられたすべての恵みに感謝し、過去の卑しさと恩知らずを悔いて迎えるなら、キリストの栄光に満ちた第2の到来が破局でなく、むしろわたしたちの心からの希望と望みの成就であり、幸福と喜びの終わることのないクリスマスが始まるのだと信じ、希望することが出来ます。

(Beatrice)



いのらの言葉



神の国と子供たち

子供たちをわたしのところに来させなさい。  
妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。

(マルコ10・14)

イエスの態度や話し方は、いつも人々を当惑させるものでした。今月(10月)のみ言葉も、子供は社会的に大切な存在ではないとされていた当時の考え方とは、相反するものです。使徒たちは、子供は邪魔になるだけだと考え、「大人の世界」に入らないよう、イエスのそばに来ないようにしました。また、祭司長や律法学者たちは、神殿の境内で「こどもたちのまで叫んで、『ダビデの子にホサナ』と言うのを聞いて、腹を立て」、彼らを静かにさせるよう、イエスに求めました。しかしイエスは、子供たちに対し、全く別の態度を取られます。ご自分のもとに呼び寄せ、手を置いて、祝福されただけでなく、子供たちをお手本として、弟子たちにお示しになりました。

神の国は子のような者たちのものである。

福音の別の個所で、イエスは、私たちが心を入れ替えて、子供のようにならないなら、天の国には入れないとおっしゃいます。

なぜ天の国は、子供のような人に属するのでしょうか。子供は、父親や母親を信頼して、すっかり自分をゆだねるからです。親の腕に抱かれている時、子供は安心して、何も怖がることはありません。周りで何か危険があるのを感じても、父親や母親にもっと強くしがみつき、それだけで自分が守られているのを感じます。また父親が子供を高い所に乗せて、飛び降りてごらんと言うと、子供は父親が抱き留めてくれるのを知っているので、安心して飛び降りるものです。

天の国に属する弟子たちも、このようであってほしいと、イエスはお望みです。真のキリスト者は、子供のように神の愛を信じ、限らない信頼をもって、天の父の腕に実をゆだねます。自分が一人だと感じる事が決してないので、何も恐れを抱くことはありません。試練の中にあっても、神の愛を信じ、起るすべてのことは、自分の善のためだと信じています。心配事がある時は、それを御父にゆだね、子供のように信頼して、必ず御父が解決してくださると確信しています。計算ずくで生きるの

ではなく、こ子供のように、御父に自分のすべてをゆだねます。

### 神の国はこのような者たちのものである。

子供は、食べ物や着る物、家、世話や教育など、あらゆる面で、両親に依存していますが、「福音的な子供」である私たちも、すべてにおいて御父に頼って生きています。御父は、空の鳥を養うように、私たちが養い、野のユリを装うように、私たちが装ってくださり、私たちが願う前からすでに、必要なものをご存知で、それを与えてくださいます。神の御国も、私たちが自分で獲得するものではなく、御父の手から賜物としていただくものです。

また子供は悪を知らないので、悪を行いません。福音に従う弟子たちは、愛することにより、悪から逃れ、清らかさを保つので、再び罪のない者となります。また子供には、過去の経験がないので、いつも新しい冒険に出るかのように、恐れなく人生を歩んでいきます。同様に「福音的な子供」も、すべてを神の憐れみにゆだねながら、過去を忘れて、毎日新たに生活を始め、いつも新たなものをもたらされる聖霊の勧めに対して、心を開いています。また子供は一人では話せるようにならず、言葉を教えてくれる人が必要です。イエスの弟子も、自分の考えに従うのではなく、神のみ言葉からすべてを習い、福音に従って語り、生活します。

また子供は、父親のまねをするもので、大きくなったら何になるかと尋ねられると、よく父親の職業を口にします。同様に、「福音的な子供」も、愛そのものでおられる天の御父に倣い、御父のように愛します。「悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」御父に倣って、すべての人を愛します。また御父は、罪人であった時から私たちが愛して下さったので、福音的な子供も自分から先に愛します。また御父に倣って、見返りを期待することなく、無償で愛します。

こういうわけで、イエスは、ご自分の周りに子供たちがいることを望まれ、彼らをお手本として示されたのです。

### 子供たちをわたしのところに来させなさい。

### 妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。

実際子供たちは、絶えず私たちが驚かせてくれます。ミラノに住む六才の女の子、ベティは次のような手紙を私に書いてくれました。「昨日、パパが『地下室に行って、物を取ってきて』と言いました。階段が暗いので、怖かったけど、イエス様にお祈りしたら、イエス様が私のそばにいてくれるのを感じました。」

またフィレンツェの三姉妹、イレーネ、イラリア、ラウラは、お母さんと一緒に車で買物に出かけました。おじいさんの家の前を通りかかったので、三人が、おじいさんに会っていきなさいと言っていると、お母さんは「あなたたちだけで行って来て。ママはここで待っているから」と答えました。やがて三人は車に戻り、「ママ、どうして来なかったの？」と尋ねました。お母さんは「前におじいさんが、ママにいや

な態度をとったのよ。これでおじいさんもわかったでしょう…」と答えると、イリアが「でもママ、私たち、みんなを愛さないといけないんだよ。敵だって…」と言いました。お母さんは何も言えず、イリアを見詰めると、にっこりして「あなたたちの方が正しいわね。ここで待っていてね」と言い、おじいさんの家に行きました。

神の御国をどのように迎え入れることができるかを、私たちは子供たちから習うことができるでしょう。

キャラ・ルービック

(お問い合わせ)

\*フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail [focolare@sa.uno.ne.jp](mailto:focolare@sa.uno.ne.jp)

(37)

人はみな、言ってみれば傍観者ではなかるうか。「私」は「他者」に対して、「個」は「全体」に対して。前者では殺害、後者では独裁くらいが例外にすぎん。これなら傍観者に徹するほうがました。いやむしる傍観者に徹したほうが、却って他に働きかける、というくらいなものだ。「歴史に参加する」とか「歴史を創る」とか言っても、流れに棹差すようなものだ。傍観者を決め込むとは違う。徹した挙げ句、働くのだ。

一九九九年三月二日

蛭田幼一

## なみだ

雨の日の午後、教会へ御聖体訪問に行った時のことです。

教会の敷地内にある幼稚園では、子供達がお家に帰る時間でした。教会前は、子供達と迎えに来たお母さん達で賑わっています。小さな傘と大きな傘がたくさん開いていて、楽しそうに話しています。

聖堂に入ろうとした時、入り口近くで傘をさして立っていた一人の子供の姿が、わたしの目に飛び込んで来ました。その子は、小さな手を差し出して何かをじっと見えています。何をしているのかと思ったら、その子は、隣に立っているお友達の傘から、ポタリポタリと落ちてくる雨粒を、自分の手のひらに受けとめようとしていたのです。まるで、何かとても大切なものを受けとめるかのように……。手の中にたまっていく雨粒を、じっと、見つめていたその子は、やがて、その手を、チャッチャッと振り、雨粒を、まきちらしてしまいました……。あの雨粒は、どうなったでしょう。

わたしは、雨粒を受けとめていたその子に、小さなイエス様を見たような気がします。私達の流す涙を、ポタリポタリと、ひとしずくも逃さずに、じーっと見つめながら、小さな手にそうっと受けとめてくださる、小さなイエス様を思います。小さなイエス様の温かい手の中に受け取られた私達の涙は、ひょっとして、優しい祈りに変えられて、誰かのために捧げられるのかもしれないと思います。小さなイエス様が、手をパツパツと振って、私達の涙のしずくを飛び散らす時、天にも地にも、祈りの雨が降るのではないのでしょうか。

今日、もしも、わたしの心が、優しい気持ちでいられたら、それは、もしかして、小さなイエス様の手からこぼれおちたあなたの涙が、優しいお祈りになって、わたしの心に届いたおかげかもしれないです。わたしの涙もまた、小さなイエス様の手の中で、祈りに変えられて、飛び散って、今泣いているあなたのお心に届いたら、どんなに嬉しいことでしょう。

丸山知佳子



## 諸所の企画についてのご紹介

### ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247  
Fax(03)3594-2254

\* 祈りの集い・いのちの泉へ

11/29(土) インマヌエル・私達と共におられる神、死者の月にあたって

12/13(土) 十字架の聖ヨハネと現代

幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父と共に

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い  
ミサ(翌・日曜日の典礼)

第二部 午後6時30分から夕食、祈りの夕べ(8時半頃終了)

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

問い合わせ・申し込み

Te l ( 0 3 ) 3 5 9 4 - 2 2 4 7 (電話は夕方6時~夜9時)

F a x ( 0 3 ) 3 5 9 4 - 2 2 5 4 (F a x 送信は何時でも結構です) 又は郵便で

### 風の家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\* 新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Te l ・ F A X 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

#### 祈りの集い

11月13日自然とともに祈る

12月11日歌をもって祈る

\* 又、個人、グループで、黙想会・研修会ができます。(宿泊10名迄可)

ご相談ください。お申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

### ズランハウス

責任者・ 井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族  
のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

## 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL. 03-3337-3291

## マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 6 - 2

申し込み

TEL. 03-3351-0297 • FAX. 03-3353-8089

e-mail midorif@jpc.apc-org

1. 祈りの集い : 11月8日(土) 18:00~20:00.

テーマ：「時」

対象 : どなたでも

2. 「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

とき：11月23日(日) 13:30~16:30

テーマ：「王であるキリストの呼び掛け」

指導 : マヌエル・エルナンデス師 (イエズス会)

対象：20代、30代の独身女性 )

参加費：500円

『心のいほり。内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

11/30(日) 4時~12/6(土) 4時まで兵庫・宝塚売布

12/21(日) 2時~13/31(水) 2時まで横浜・戸塚(変更)

\*2004. 1/13(火) 2時~1/18(日) 2時まで兵庫・宝塚売布

1/25(日) 2時~1/31(土) 2時まで横浜・戸塚

2/8(日) 4時~2/14(土) 2時まで京都・竜安寺

2/22(日) 2時~2/28(土) 2時まで沖縄・与那原

3/7(日) 2時~3/13(土) 2時まで横浜・戸塚

3/22(月) 2時~3/28(日) 2時まで兵庫・宝塚売布

4/18(日) 2時~4/24(土) 2時まで横浜・戸塚

5/9(日) 4時~5/15(土) 2時まで京都・竜安寺

5/24(日) 2時~5/29(土) 2時まで盛岡・白百合

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2003, 2月22日（土）5:30pm～23（日）4:00pm 了  
6月28日（土）5:30pm～29（日）4:00pm 了  
10月25日（土）" 26（日）"  
2004. 2月21日（土）" 22（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2003, 2月11日（火）10:00am～5:00pm 了  
5月18日（日）10:00am～5:00pm 了  
10月19日（日）10.00am～5.00pm  
2004, 2月8日（日）" "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） \*対象、一般信徒

2003, 5月19日（月）10:00am～4:00pm 了  
10月20日（月）10:00am～4:00pm

年の黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） \*対象、修道女

2003, 7月23日（水）5:30pm～7月31日 朝食後解散 了

指導：雨宮師（東京教区司祭）対象：修道女

2003: 12月26日（金）5:30pm～2004, 1月4日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

第2グループ 毎月第1木曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～200Pm）

# リーゼンフーバー講座・集い案内

2003～2004年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学 7号館 316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kultourハイム 1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ●4月28日(月)20時30分～5月5日(月)14時  
6月13日(金)20時30分～15日(日)14時 } 秋川神冥窟  
8月9日(土)20時30分～16日(土)14時 } 1泊2400円程度  
10月31日(金)20時30分～11月4日(火)14時 }  
2004年2月21日(土)8時30分～22日(日)16時 } 上石神井5400円  
●5月24日(土)13時～25日(日)16時 }  
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 } 宝塚市
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。  
但し、8月には26日のみ(上智大学内 Kultourハイム聖堂)。12月24日休み。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月23日、9月20日、10月11日、  
11月15日、12月6日、2004年1月10日、2月14日、3月6日
- 黙想会 6月21日(土)10時～22日(日)15時、  
9月13日(土)10時～15日(月)15時、11月22日(土)10時～24日(月)15時、  
2004年3月13日(土)10時～14日(日)15時  
1泊4400円程度
- アガペ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～ 20代～40代の信者  
4月13日(日)、6月8日(日)：上智大学カトリックセンター  
10月4日(土)、2004年1月24日(土)：S.J.ハウス第5会議室
- クリスマス会 12月20日(土)16時30分～ 上智会館 5階 第6会議室 要申し込み  
ミサ 12月23日(火)14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会） \*詳細は電話で問い合わせて下さい。

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原3-55-1

TEL: 0424-82-2012

FAX: 0424-82-2163

\*当修道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩20分

タクシーで20分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

\*宿泊を希望されるかたは『友愛の家』にどうぞ。

一泊朝食付き 3000円

個人で祈る一日静修のご案内

— 聖書で祈る —

深まりゆく秋のひとつき、神との出会いを求め

聖書のみことばに導かれて祈りましょう。

日 時 11月24日（月）（振替休日）10:00-16:30

対 象 女性の信徒・求道者（定員になり次第、締め切らせていただきます）

参加費 2500円（昼食代を含む）聖書・ロザリオ・筆記用具をご持参ください。

場 所 東京・上野毛カルメル修道院

申込み先 聖パウロ女子修道会 〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 Sr. 菊池

TEL03-3479-3941 FAX 03-3479-5198 E-mail sanpaoline@pauline.or.jp

スタッフ 聖パウロ女子修道会 シスター

## 2003年度聖書講座

# 思いがけない言葉(詩編 81:6)

## —聖書で見過ごされている文書

〈共催〉

NHK 学園

カトリック東京大司教区

上智大学キリスト教文化・東洋宗教研究所

カトリック教会司教

- (1) 11月15日(土)10:00~11:30 森 一 弘

「草は枯れ、花は散り、その美しさは失せてしまいます—『ヤコブ書』を読む」

上智大学名誉教授

- (2) 11月15日(土)13:30~15:00 高柳 俊一

「『ユダの手紙』—旧約伝承と勧告のレトリック」

上智大学教授

- (3) 11月15日(土)15:30~17:00 小林 稔

「最新の新約文書—ペトロの第二の手紙が書かれた頃の教会事情」

上智大学教授

- (4) 11月16日(日)10:00~11:30 佐久間 勤

「『エステル記』を読む—終末論のレトリック」

(引き続きミサ 司式 佐久間 勤)

上智大学教授

- (5) 11月16日(日)14:00~15:30 雨宮 慧

「若いときの妻を裏切ってはならない—マラキの言葉」

場 所 上智大学 中央図書館9階 921会議室

|     |    |       |        |    |       |        |
|-----|----|-------|--------|----|-------|--------|
| 聴講料 | 一般 | 1回当日券 | 1,000円 | 学生 | 1回当日券 | 600円   |
|     |    | 1回前売券 | 800円   |    | 1回前売券 | 500円   |
|     |    | 5回連続券 | 3,800円 |    | 5回連続券 | 2,300円 |

(5回連続券は前売り~11月15日第1回受付まで販売)

前売券 10月24日(金)~11月14日(金)迄

発売予定 聖イグナチオ教会案内所売店 Tel 03-3230-3509

又は上智大学キリスト教文化・東洋宗教研究所(JR 中央線、地下鉄丸の内、南北線 四ツ谷駅下車)

問合せ先

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学キリスト教文化・東洋宗教研究所  
Tel 03-3238-3540, 3190 Fax 03-3238-4145

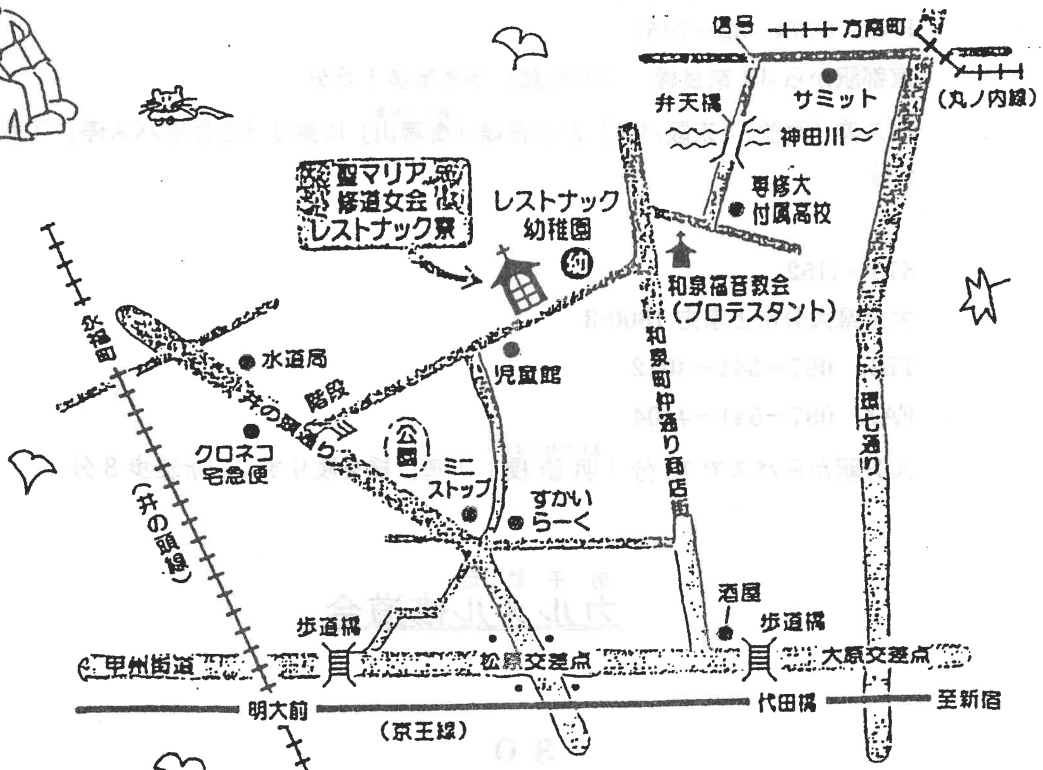
クリスマス前の一日静修会

日ごとに、秋が深まって参りましたが、皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。12月の初め特降節の一日、静かに祈る若者のための静修会を、下記のように計画致しました。クリスマスに向けて心のよい準備を共にすることができたらと思っております。お友だちを誘って、どうぞご参加ください。

- テーマ 「クリスマスに向けて」
- 日時 12月7日(日) 10:00am~4:30pm
- 対象 独身女性信徒、又は、求道者 (18~35才)
- 指導 ジャン・クロード神父(イエズス会)
- 場所 聖マリア修道女会 (和泉修道院)  
〒168-0063 杉並区和泉2-41-23 Tel.03-3321-1550
- 会費 500円
- 持ち物 聖書、筆記用具、お弁当
- 申込み 12/4(木)迄に ハガキ、又は電話で、上記の住所  
聖マリア修道女会「一日静修会係り」宛てお申し込みください。

聖マリア修道女会(和泉修道院)までの交通

- \*新宿駅より、京王線・各停で、代田橋駅下車、徒歩13分  
特急、急行で、明大前駅下車、徒歩15分
- \*渋谷駅より、井の頭線・急行、各停で、明大前駅下車、徒歩15分  
永福町駅下車、徒歩12分



上野毛・宇治・大分

## カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）はカルメルの霊性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」（京阪バス）から循環「御蔵山」<sup>おくらやま</sup>に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「明<sup>あけがわらばし</sup>礪橋」下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足  
カルメル修道会



## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り      毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他      自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。      なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は 九里 彰神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子      〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

---

## あとがき

「霊性センター・ニュース」の編集担当の仕事を、このたび星野神父からバトンタッチいたしました。カルメル会のみならず、諸所の黙想会や霊的活動に関する情報を載せたこの冊子は、幸い多くの人々に利用されているようです。これからもこの基本路線を守りながら、現代社会に生きるキリスト者との関わりの中で、キリスト教霊性一般、カルメル会の霊性、東西の霊性比較等々の記事を書いてゆきたいと思っております。「霊性センター・ニュース」がますます人々の霊的渇きをいやす「生ける水」の泉となってゆくことができますように。

霊性センター・ニュース

九里（くのり） 彰

